

鏡映描写における頭部ヘモグロビン濃度の測定(日本基礎心理学会第24回大会,大会発表要旨)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kojima, Haruyuki, Maehara, Goro, Taya, Shuichiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/7222

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



氏名：小島治幸（こじまはるゆき）

所属：金沢大学文学部

連絡先：920-1192 金沢市角間町 金沢大学文学部心理学講座

電話：076-264-5303

e-mail：hkojima@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

発表タイトル：鏡映描写における頭部ヘモグロビン濃度の測定

発表者：小島治幸（金沢大学）、前原吾朗（金沢大学）、田谷修一郎（金沢大学）

パソコン使用の有無：無

発表要旨：

鏡映描写遂行時における側頭部および後頭部の脳血流量の変化を、近赤外分光分析装置 (NIRS) によって測定した。参加者は、鉛筆で、星形図形をできるだけ早く正確になぞるように教示され、A:右手または B:左手で、1：鏡を用いた条件（鏡映描写）、2：鏡を用いない条件（通常描写）、の計4条件において描写を行った。これらの描写遂行の間、酸化／脱酸化ヘモグロビン濃度変化が測定された。6名の被験者の条件ごとのヘモグロビン濃度変化のパターンは様々であった。しかし一般に、皮質運動野の位置する側頭部では、描写に用いた手の左右に対応した半球の酸化ヘモグロビン濃度が高まる傾向が見られた。また、鏡映描写時には、より前頭部での酸化ヘモグロビン濃度の上昇が観察されたケースがあった。